

<p>奈良市</p> <p>手をつなぐ親の会だより</p>	NO 373	令和元年10月4日(金)
	発行	奈良市手をつなぐ親の会
	会長	小西 英玄
	所在地	〒631-0801 奈良市左京5-3-1 奈良市総合福祉センター内
	Tel 0742-71-0770	http://naraoyanokai.info/



福祉は誰のため

NHK朝ドラ「なつぞら」が9月28日で終わりました。戦災孤児、浮浪児、貧困、開拓、家族、同胞、多くのキーワードがありました。憲法9条 貧困 虐待自己責任論 環境問題 現在の社会を反映したドラマでした。

障害者福祉の先駆者「糸賀一雄」氏の思想の原点は、大人が起こした戦争であるのに戦災孤児を見捨て、浮浪児狩りを行った社会に対して、その子どもたちを教育や福祉によって輝かせ、社会を創造していく主体にしたことで、人間の人格尊重や発達が根底にあると言えます。

戦後74年経って福祉の対象や領域は広がっているが、障害者問題は一般市民の方には広がらず、依然として障害者の世界にとどまっている現状。児童虐待等をも、現在の方がゆたかな社会とは必ずしも言えない。生誕105年を迎える糸賀さんの思想は、このような現代社会に通じる社会指標であり、生きることが輝くような社会をめざして実践していくことが重要であると指摘しています。これは現代社会への警鐘でもあります。

大川靖則元市長とお会いしました。リサイクル事業を始めてくださった私たちの恩人です。現在88歳ですが、「福祉の大川」は健在でした。

- ・「働けば 人の心に 光さす」
- ・「障害者問題は、当事者だけの問題にしたらあかんねん。社会全体の問題にせなあかん」

の言葉どおり、私たちの子どもにリサイクル事業のプレゼントを頂き、29年経とうとしています。

小さな福祉 大きな福祉

さて、「福祉は誰のため」若しくは「福祉で得をするのはだれ」と言う言葉をよく耳にします。

福祉はその時により対象者はかわりますが、国民全員を対象にするのか、ある特定の人達を対象にするのか、当然総ての人が対象ですから、市民のみなさんにとって、他人ごとでは無いはずなのです。

一人ひとりの支援を、地を這うような「虫の目」の視点で関りつつ、一方でひとりの支援から見えてくる地域課題を普遍的につかんでいく「鳥の目」の視点も併せもち、さらに、地域課題の解決にむけて、資源開発等を仕掛けていくタイミングをとらえる「魚の目」という、多角的な三つの目が福祉関係者には必要だと考えます。

今改めて、「障害者問題は、当事者だけの問題にしたらあかんねん。社会全体の問題にせなあかん」と言われた大川元市長の声が聞こえてくるような気がします。